

マプーチェ族の音楽とその文化 ～チリ民俗音楽について③～

近藤元子

アンデスの音楽は世界的によく知られていて、誰でも、神々しい山々のシーンのバックミュージックによく使われるケーナの音や、カラフルな民族衣装に身を包んだ先住民など、それぞれいろいろなイメージをもとにコメントできると思います。しかし、誰かが「マプーチェの音楽ってどんなの？」と聞いたならば、果たしてうまく説明できるでしょうか？チリに住んでいる皆さんだったら、ある程度は知識として持っていることと思いますが、はっきりいって、マプーチェの音楽は知られていないのです！なぜか。本場のペルーやボリビアでは、その音楽はいろいろな現代楽器を組み入れてfolkloreというひとつのジャンルを築きあげ、数多くのミュージシャンを生んでいます。しかしマプーチェ音楽はそうではない。なぜか。今回はマプーチェ音楽についてのお話です。

1 マプーチェ族

スペイン人がやってくる以前、この地域には先住民がおり、16世紀、スペイン人のチリ征服の歴史において最も困難だった出来事は先住民との戦いでした。都市を創ったかとおもえば彼らの襲撃にあい、その抵抗は19世紀の後半にようやくおさまったほどです。それがマプーチェ族であり、アラウカーノ族としても知られています。

現在ではチリの南テムコを中心としてチリ人口の9.6%の人口を抱えています。その中でも住んでいる地域などによって、名称ともに数多くのグループに分かれ、それぞれロンコと呼ばれるリーダーを中心に共同体を作って生活をしています。同じマプーチェといっても、住んでいる地域によって話す言葉も多少違い、衣装や装身具にも違いが見られます。近代化の波によってサンチアゴなどの都市部にでてきて生活をしている人たちも多くいます。変わった名字を持っているから、肌の色が違うから、と差別に苦しむ特に子供たちがいることも事実です。また、平定されたといっても、南部の土地を巡ってチリ政府や外国企業ともめていることから、アラウカーノの戦いは未だ終わらず、といった感があります。このことから、時に「マプーチェ＝ゲリラ・テロリスト」といった誤った印象をもつ人もいることが非常に残念でなりません。

2 ギジャトゥン

マプーチェの音楽はその儀式と非常に密接な関係があります。ほとんどがその儀式の際に用いられるといってもいいでしょう。

様々な儀式がありますが、ギジャトゥンはマプーチェの儀式の中でも最も重要なものです。雨乞いや、その年が良い年になるように祈るのための儀式で、伝統的な風習によると、二年ごとに行われます。ニエンピムと呼ばれる人がその日取りを決めます。現在ではマチという巫女やロンコ（共同体の長）が決めたりするところも多いようです。地域や共同体によってやり方が違います。

儀式のための場所はすでに決まった場所を使用します。サンチアゴで行われるギジャトゥンはいろいろな地域のマプーチェが集まって行うためか、禁止事項が緩かったりノルマも厳しくな

かったりします。これは都市にいるマプーチェの交流の場所と機会として機能しているのではないか、というのが私の考え方ですが、そのギジャトゥンに私は3回ほど参加しています。南部の共同体のギジャトゥンとはずいぶん違うと思いますが、とりあえずはそのギジャトゥンの中で、衣装姿のたくさんのマプーチェやマチを見ること、楽器の音を聴くこと、などなどはめったにできない経験だったと思います。こういった機会は多くあるわけではなく、通常のイベントやお祭りとは違って、部外者（特に、一目見て外国人とわかるような人）は入ることができません。



私が参加したギジャトゥンでは、広い空き地が使われており、中央にシナモンの枝（マプーチェにとっては神聖な木です）でレウエと呼ばれる祭壇が作られます。そこにはパン（ソパイピージャと呼ばれるもの）、ムダイという小麦で作った飲み物など、お供え物が置かれます。そのときのお告げによってはそのほかのものも用意する必要があります。（ちなみに、馬がそこにつながっていたときもありました。）

左図はチマムルと呼ばれるもので、レウエと同様のものです。これは通常墓地に立て、亡くなった人を表しています。故人を象徴するため、いろいろな形があります。しかし、マプーチェは死を別に考えているため、墓という概念ではありません。

レウエには、後ろに階段がついているものもあります。階段が後ろにあったり前にあったりするのは、共同体による違いです。この階段は何の役目があるかという、マチがトランス状態に入ると、その階段を登り、天上の精霊と交信し、民衆にメッセージを伝えるのだそうです。レウエ、チマムルは同様のものと考えられていますが、チマムルは墓地にあり故人をかたどったもの、レウエはギジャトゥンのような儀式の場所に立てられ儀式用の役割を持つ、と分類できます。ちなみに、マチが病人を治す儀式はマチトゥンといいます。

3 マチ

マチになりたいといくらがんばってもなることはできません。これは生まれつきの特殊能力によるからです。一族の中にマチがいれば、いくつか後の世代にマチがでる。それは男性であったり女性であったりします。マチになる人は生まれつき不思議な力、人と違う能力をもち、普通の人には見えないものが見えたり、予知夢を見たり、薬草を見分ける力があったり、物事を覚えるのが非常に早かったりします。また、その能力のレベルもマチそれぞれで、違った能力、強さがあります。風や雷などの力を持つマチは、その力が非常に目立つ形で現れ、特に特訓などは必要ないようですが、通常は、マチもその力を十分に発揮できるようにいろいろな特訓をするようです。



4 楽器

マプーチエの儀式には次のような楽器が用いられます。楽器は儀式用のものは特に神聖化され、儀式用のものと祭り用のものを使い分けている人もいます。カスカベルとクルトゥルン以外は男性が演奏することがほとんどです。女性が演奏しているのは見たことがありません。

ピフィルカ（左図）：単音または二音の笛。木をくりぬいているだけのシンプルなもの。二人または複数で交互に音を出し合います。



トロンペ：金属でできた楽器で、口に加え、はじいて音を出す。口琴と呼ばれる種の楽器です。

（左図）興味深いことに、日本のアイヌ民族の使用する楽器にも似たものがあります。話によると、これは男性が女性を引き寄せるのに効果があるといわれています。

トゥルトウルカ：ホルンのような楽器。（左下図）

合図や儀式を盛り上げるために使用します。
カスカベル：大きな鈴をいくつか束にしたもの。（下図）手に持ち、踊りながら使用します。



ギジャトゥンを支える音楽と楽器の中で最も重要な楽器がクルトゥルンです。

クルトゥルン：マチの使う鉢型の太鼓。鉢の部分は木で上部に皮が張られている。そこには彼らの宇宙観を示すというマークがいつも赤で描かれています。

様々な模様がありますが、大体が右図のようなデザインで、星や月や太陽は、そのマチの持つ力に由来します。



ギジャトゥンでは、クルトゥルンの規則的な音が大きくなったり小さくなったりしながら人々を先導します。男性はピフィルカを吹き、単音が呼応します。女性はカスカベルを片手に、もう片方には葉のついた枝を持ち、輪ではなく列になって踊ります。時折歓声のように声があがります。そうした一連の動作を繰り返しレウエの周りを何週か周ります。このギジャトゥンは少なくとも二日は続きます。この儀式をきちんと行うことが、その年の収穫やその儀式の祈りの結果を左右します。マチのほかにもいろいろな役割を持つ人がいて、その中にコジョンと呼ばれる面をかぶった見張り役がいます。南部の方では、儀式の場所が広いため馬に乗って走りまわるようですが、コジョンは、儀式の作業を怠けている人を見つけ、参加させ、儀式が滞りや問題なく行われるのを助ける役割があります。

5 歌

こうしてみると、マプーチェ音楽はインストゥルメンタルのみのような気がしますが、その他に「歌」もあります。通常は儀式の踊りなどには登場しません。その歌い方は非常に独特で、メロディの終わりを上げ調子にする特徴があります。チリの田舎の歌いまわしにはこの影響があるといわれています。

いつだったか「マプーチェの歌と音楽の出会い」なるイベントに行ったことがあるのですが、「それでは私の歌を聴いて下さい。こんな風にはじまります・・・」とあって始まったのがその「歌」で、マプドゥングン（マプーチェ語）だったためにさっぱり内容が理解できませんでしたが、どうやら自分の身に起きたことや考えなどを歌っているようでした。マプーチェの「歌」は「語り」なのです。しかもそれは、多くの場合、即興です。

6 終わりに

実際に見たり聴いたりするとなかなか興味深いマプーチェの音楽と踊りですが、冒頭にかかげた二つの疑問は以下の文章によって回答できるでしょう。

マプーチェの音楽は一般的な商業的ベースに乗っていません。それはその音楽の特徴によります。おそらくラジオの番組で一時間マプーチェ音楽があったら、たぶん聴衆は飽きてしまうでしょう（こんなことをマプーチェの誰かに聞かれたら怒られてしまいますが）。それは、その音楽が聞いて楽しむ性質のものではなく、儀式に使用されるものだから、だと私は思っています。さらに、その音楽が演奏される場所も、こういった儀式のように部外者はなかなか入ることが

できない機会・場所であるために、一般の人が本当のマプーチェの音楽に触れることは非常に難しいといえます。

マプーチェであり、マチがいた家系に生まれたヒメナは言います。

「ウインカ（外者）には単調で何の意味も楽しみもない音楽かもしれないけれど、マプーチェならば、体の底からそのリズムを感じるの。それは流行りの、生まれては消える商業音楽とは正反対のもの。私は、マプーチェの音楽が流行りになって欲しくない。ウインカは本当のものにたくさんの手を加え、「売れるように」して、本物を壊してしまうから。」

オリジナルの文化を維持することはとても難しい作業です。文化は常に変動していくものですが、伝統を守るためには手を加えず保存する、ということになります。保存するのも大事ですが、人目に触れないために、「忘却」という危険がまっています。現に、多くのマプーチェの血をひく人の多くはサンチアゴ生まれ、サンチアゴ育ちで、伝統どころではありません。はたしてマプドゥングンを自在に話すことのできるマプーチェはどれだけいるでしょう。自らの文化とルーツを知らなければ、アイデンティティの喪失もありえます。



これを危惧し、サンチアゴ生まれの子供たちに、踊りをとおして、マプーチェとしてのアイデンティティを復活させようとしている人たちがいます。

マプーチェであることを理由に学校でいじめられたりして、マプーチェであることを否定したりする傾向にあった子供たちも、その音楽を聴いて、見たこともない楽器に触れて、「なんとなく、心地よい音」と感じる人が多いのだそうです。これをきっかけに、自分のルーツに目覚める子も少なくありません。

今、この楽器たちは、儀式のためだけでなく、マプーチェ自身のために力を発揮しています。

この記事は日智商工会議所会報 2003 年 3 月 190 号に掲載されました。